

2026年10月3日（土）

老球の細道944号

ほめ上手

会津バスケットボール協会 室井 富 仁

先日ミニバスケットボール大会を観戦していたら、ミニバス選手のパーソナルコーチをしている知人が話しかけてきた。子どもたちを指導するにはほめることが大切であることを強調していた。かつて叱りつけて指導していた私には耳の痛くなる話であったが、今はほめることに重点を置いて指導しようと心がけている。もちろん「ならぬことはならぬ」で厳しく注意する時は注意しなければならない。人を叱り、ほめることを通して相手の成長、向上を楽しむことはコーチの至福の喜びである。

先日、偶然にも1991年の「読書ノート」から『ほめ上手 叱り上手』（本明寛・マネジメント社）の文章を見つけた。ほめ方にも色々な原理原則があるようである。

【叱る、ほめる条件】

- 1・タイミング
- 2・感情的にならない
- 3・人に関心を持つ
- 4・先入観にとらわれない
- 5・自分の性格特徴を知る
- 6・自分にも厳しく

【ほめ方の3原則】

- 1・賞を与える意味を考えて
- 2・叱った成果を考えて
- 3・正当な効果を考えて

【ほめるチャンスとは】

- 1・よいことをした時。特にそれが小さくても反復された時。
- 2・他の人と違った独創的なやり方をした時。
- 3・ものの考え方、価値観について自分なりの主張をした時。
- 4・集団のメンバーとしての意義が示された時。
- 5・マナー化を打破する提案がなされた時。
- 6・心の良さを示した時。

【ほめ方】

- 1・積極的にほめる
- 2・オーバーにほめる
- 3・人の前でほめる
- 4・単純にほめる
- 5・おだててよい
- 6・成長のための報酬と考える

また、次のような文章にも赤のアンダーラインが引いてあった。

「説教は叱り、教え、ほめるという3つのステップを踏むことによって、相手方に向上心をひきおこさせることになる」「ほめられたことがあるというのは、精神的に貯金をするようなものである。人間の器を大きくする方法の一つだ」「人を育てるということの原点は、人の心を開く、人を感動させるというところにかかっている」「叱る時にくどくど言わないのと同じように、ほめる時もあっさり理屈をつけてほめることである」

昔から「ほめ方」には注意をしていたようだが、いまだに恩師の菊池長康先生のような「ほめ上手」になれない。山本五十六の人を育てる名言「やってみせ、言って聞かせて、させてみて、ほめてやらねば、人は動かじ」を心に抱いてコーチ G（爺）は今日も農道を駆ける。